

被爆68周年原水爆禁止世界大会 ひろば

ヒロシマ・ナガサキ・JCO と結んで

国の責任による福島原発事故被災者への 健康手帳交付を求める運動を全国に広めよう(仮称)

ヒバクを許さない集い Part 14 に向けた討論集会

日時：7月15日 13:30～4:30 場所：大阪市市民交流センター ひがしよどがわ 306号室
討論のテーマ

1. 国の責任による福島原発事故被災者への健康手帳交付を求める運動を脱原発運動と結んで全国に広めるために
2. 「労働者と住民の安全と健康を守り、生じた被害は補償することを求める要請書」に基づく 第7回政府交渉(6/24)の報告と総括

福島事故から2年4か月が経ちました。しかし事故は収束しておらず、事故原因も究明されないまま、電力会社と政府は各地の原発再稼働を狙っています。自公政権は前政権の「脱原発」を否定し、重大事故は起こらないとする従来の立場を転換させ、原子炉が破損する重大事故が起きることをも想定に含め住民と労働者への被ばくを強要する「新規基準」を決定し、あくまで原発を延命させようとしています。一方で原発輸出の国際活動を強めています。事故2周年行動を軸に脱原発を求め、再稼働に反対する大規模な行動が首都圏、関西など全国で継続して関わっています。

被災地の現状は、今なお約15万人が避難生活を強いられている等、深刻さは変わっていません。被災者はこのような事態を招いた政府と東京電力に対する強い怒りと「元のくらしに戻せ!」という思いで放射能被害と闘っています。

私たちは福島事故後、政府と7回にわたって交渉をしてきましたが、政府は「国の責任で被災者、原発事故処理労働者に健康手帳を交付し健康保障を行え」という私たちの要求を受け付けようとしません。運動の力で国の責任によるフクシマの被災者、事故処理労働者への健康手帳交付を実現する事が今重要な課題となっています。

「被ばくと健康問題、これからの懸念、このような事態にしたのは国や東京電力だと言う思い、これは誰もが持っている。ここをよりどころとして運動を作っていきたい。それが今福島で求められていることではないか。いままで脱原発でやってきたが、被災者の救済と両輪でやっていきたい。」というフクシマの訴えを

しっかりと受け止め、国の責任による被災者への健康手帳の交付と健康保障を求める運動を、脱原発の運動と両輪として、いかに全国に広めるか、討論を深めましょう。

